

ワラル JICA 専門家事件 31 年目追悼式
片山大使挨拶【2022 年 7 月 12 日】

おはようございます。

日本大使館を代表し、一言挨拶申し上げます。先ず、31 年前、当地で尊い命を失われた宮川清忠氏、中西浩氏及び金良清文氏の 3 名の犠牲者に対し、改めて衷心より深い哀悼の意を表します。また、御遺族に対して改めて心よりお悔やみ申し上げます。

彼等 3 名の日本人専門家は、ペルーの農産品生産技術向上のため、ペルー人の中に入って真摯に技術協力に取り組んでいたにも関わらず、テロリストの残忍な行為により命を落としました。我々の深い憤りと悲しみは、31 年が経過した今でも決して消え去ることはありません。

事件後、当時ペルー各地で活動していた日本人の専門家や海外協力隊員は、全員一斉に引き上げ、一定期間派遣中断を余儀なくされました。しかしながら、そのような逆境にも関わらず、JICA 専門家達のペルーへの熱い思いや地道な努力は、現地ペルー人スタッフに脈々と受け継がれて来ました。現在もここ野菜技術研究センターは重要な役割を担い続け、ペルーの農業分野の発展を日々支えていると伺っています。改めて関係者に敬意を表したいと存じます。

現在、ロシアのウクライナ侵略が世界の食糧問題を引き起こしている中、ペルー産農産物は、その品質の高さから世界各地に輸出されております。日本に向けても、アボガド、アスパラガスなどに加え、近年では、うんしゅうみかんなどの輸出解禁が行われました。ここワラルの農家からも日本向け輸出が行われており、本日午後はある農家を訪問予定です。

現在、日本政府はここペルーにおいて様々な分野で開発協力を行っております。それぞれの開発協力が意義ある成果を発揮するためには、テロを始めとする種々の障害を取り除き、専門家やボランティアの方々が安全に活動できる環境確保が大前提となります。そのためには、ペルーの皆様の御協力が必要です。この場をお借りして、引き続き皆様の一層の御理解・御協力を改めてお願いする次第です。

最後になりましたが、31回目を迎える本追悼式の開催に御尽力いただきました関係者に感謝の意を表するとともに、皆様とともに31年前の悲劇の犠牲者を追悼し、その歴史を決して忘れないことを改めて誓い、私の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。